

高等学校教材

日本近代

文学史

谭晶华 选编

123

上海外语教育出版社


外教社

高等学校教材

日本近代文学史(小说·评论)

(日语专业用)

谭晶华 选编

上海外语教育出版社

高等学校教材
日本近代文学史（小说·评论）
（日语专业用）
谭晶华 选编

上海外语教育出版社出版发行
（上海外国语大学内） 邮编：200083
电话：021-65425300（总机），65422031（发行部）
电子邮箱：bookinfo@sflep.com.cn
网址：<http://www.sflep.com.cn> <http://www.sflep.com>
中共上海市委党校印刷厂印刷
新华书店上海发行所经销

开本 850×1168 1/32 4.25 印张 112 千字

1992年4月第1版 2000年10月第3次印刷

印数：2 000 册

ISBN 7 - 81009 - 664 - 8

I·049 定价：6.00 元

本版图书如有印装质量问题，可向本社调换。

编者的话

高等学校日语专业的学生在学习了一定数量的近代文学作品之后，为了加深理解，需要进行系统的归纳和整理。因此，以日语语言文学专业高年级学生为对象开设日语讲授的日本近代文学史课程是很有必要的。

本书是上海外国语学院日语专业高年级学生使用的日本近代文学史教材，它结合时代背景和各个时期的问题点，比较系统、简明地介绍了明治维新至二十世纪六十年代日本小说、评论界的各主要文学流派、同人杂志、作家及其代表作品。考虑到便于学生形象地了解代表作家的创作风格，一些垂名于文学史的经典作品在本教材中均有节选的引用文。每一章后加了必要的注释，最末还有对近代文学史的扼要的归纳，并附有重要的思考题。

本教材主要依据日本明治书院出版的「日本文学史」（新版）、「日本文学史的指导与实践」、「近代日本文学史——近代文学教育之研究」（改订版）、旺文社出版的「日本文学史」、中央图书社出版的「注解日本文学史」（七订新版）及一些相关的文学工具书、参考书选编而成。成书过程中曾得到周平同志和上外工作的日本专家的指点和协助，又承蒙复旦大学苏德昌教授、上外孙宗明副教授费心审核，在

此一并谨致谢意。

对于本教材的错误及不当之处，竭诚欢迎批评指正。

一九九一年一月

目次

一、概観	1
二、前期	8
(ア)啓蒙期	8
(イ)写実主義	15
(ウ)擬古典主義	22
(エ)浪漫主義	29
(オ)自然主義	39
(カ)反自然主義	51
三、後期	76
(ア)プロレタリア文学	76
(イ)近代主義	82

(ウ)文化統制下の文学	192
(エ)戦後の文学	101
四、まとめ	116
五、設問	123

一、概観

『近代文学の特色』 明治維新は、封建制から抜け出して、日本に資本主義生産機構への脱皮を促し、世界の氣運に遅れないとする新しい日本の歩みを発足させることになり、日本が近代を歩み始める切りかえの時点であった。徳川幕府の鎖国政策による長い間の閉鎖的な島国生活は、従来の古い封建的な生産関係を維持し、また日本固有の社会的、文化的諸条件を温存し高次化するには役だつたにせよ、世界的な視野からすれば進歩への歩みはおおうべくもない立ち遅れをとつたことになつていた。だから、そのような立ち遅れから脱出していわゆる文明開化の新風に身をさらすことは、ただに量的な進歩というにとどまらず、質的な変革を意味するものであった。明治維新の変革を推進したものは、政權の座にあつた徳川幕府の内部崩壊と、新しい世代から盛り上がってきた若い革新のエネルギーであり、そのような主体的な要因を助けたものは、幕末の騒然たる海外からの刺激であった。明治維新の切りかえによって、日本は急速に海外の新文化の近代的なものに着目し、それを摂取して、一種の追いつき運動を開始したのである。

文学においてもまったく同様である。近世文学にいたるまでにつちかわれて来た文学の伝統的遺

産は、鎖国にぬくもった爛熟の果ての頽廢的傾向を帯びて、新しい時代の創造的価値を生み出すエネルギーを欠いていた。そして、最も弱い点は、体系的な理論を持たないことにあった。したがって、近代に脱皮した需要にこたえるためには、西欧の近代に学び、その要素をとり入れたものでなければならなかったのである。もちろん、従来の文学遺産と全く絶縁したところから出発したものではなく、伝統文学の土壌の上に花さいたのであるが、今まで見て来た他のいかなる時代よりも外国文学の強い影響下に発展したことは大きな差異である。

近代文学は、近代社会を背景とする。近代社会は市民社会である。市民社会の特色は、自由主義的な民主主義精神によってつらぬかれていることである。この社会を動かす経済機構は、資本主義である。近代市民社会に生きる近代人は、封建的な身分の拘束から解放され、あくまでも自由平等であり、ヒューマニズムを基本とした近代的自我に覚醒している。近代社会は、二十一世紀に入ってその面貌を改めた。自然科学が異常に発達したために、社会の構造や機構はますます複雑となり、したがってその中に生きる近代人の思惟、感情はいよいよ複雑・多彩となった。原子力が開発され、人工衛星が打ちあげられ、月ロケットが回るような宇宙世紀の時代にまできたり、文学というものが遊戯的な閑文学でなく、そこに真剣な新しい人間の生き方の探求が盛り込まれるにいたった。

【前期の文学の展望】 外国文学の輸入は、啓蒙思想家や先覚者によってなされ、翻訳文学が迎えられた。写実主義・浪漫主義・自然主義も、外国文学の影響のもとに勢力を得たが、外国文学にお

ける流行よりはおくれていた。やや同時代的な影響を受けとめるようになったのは、第一次世界大戦後のことである。自然主義によって、近代文学は素材の点でもまた手法の点でも大きな転換をとげた。

【後期の文学の展望】 大戦後の社会情勢の変化を背景として、社会主義が勢力を得た。階級意識を掲げた文学が台頭し、プロレタリア文学が流行した。いっぽう、そのような動向に背を向けて個人主義的なわくの中で文学を楽しみ、従来の文学の形式を革新しようとする芸術的近代派の文学があらわれた。この二派の文学は、いずれも新たに誕生したもので、大正末期から昭和初期にかけて対立しながらはなやかな活動を示した。したがって、昭和の文学はこの二派の新文学と、既成文学とが三派鼎立の状態で行進した。

プロレタリア文学が戦時下の弾圧によって崩潰し、芸術的近代派も文学精神の衰弱のために消滅したが、終戦後はふたたび三派鼎立の形をとった。民主主義文学、新しい文学様式を追求する戦後派文学、および既成文学の延長と見なされる文学の三派がそれである。

近代文学の展開図

前期 明治元年（一八六八）——大正七年（一九一八） 後期 大正八年（一九一九）——

戯作文学

写実主義文学

——自然主義文学

——私小説

既成文学

……

啓蒙文学

擬古典主義文学

反自然主義文学

プロレタリア文学

——転向文学……

民主主義文学

硯友社文学

耽美主義

芸術的近代派文学

……戦後派文学

翻訳文学

理想主義

政治小説

浪漫主義文学

白樺派

新感覚派

実存主義

新現実主義

新興芸術派

（無頼派）

新心理主義

年号	事項
明治元 一八六八	明治改元
七一	廃藩置県
七二	学制発布・太陽曆採用
七四	明六社創立
明治10 七七	西南の役 翻訳小説流行
八一	国会開設の大詔発す 政治小説流行
八五	硯友社結成 我楽多文庫創刊
明治20 八七	国民之友創刊 言文一致運動
八九	帝国憲法発布 しがらみ草紙創刊
九〇	帝国議會開会
九一	早稻田文学創刊
九三	文学界創刊 短歌・俳句の革新氣運起ころ
九四	日清戦争
明治30 九八	ホトトギス創刊
九九	条約改正
一九〇〇	明星創刊
〇三	平民新聞創刊
〇四	日露戦争

明治40

〇五

自然主義文学起こる

〇八

アララギ創刊

〇九

スバル創刊 耽美派・享楽派盛ん

一〇

大逆事件 白樺・三田文学創刊 新浪漫主義起こる

大正元

一四

第一次世界大戦起こる

一六

新思潮(第四次)創刊 新現実主義起こる

一七

ロシア革命

一八

各地で米騒動起こる

一九

改造創刊

二〇

最初のメーデー

二一

種蒔く人創刊

二二

関東大震災 文芸戦線・文芸時代創刊

二四

築地小劇場開く

二五

治安維持法実施 普通選挙法公布 日本プロレタリア芸術連盟成立

二六

大衆文芸流行

二八

全日本無産者芸術連盟(ナップ)成立

三一

九・一八事変

三二

五・一五事件

三三

日本、国際連盟を脱退

昭和元

昭和10	三五	芥川、直木賞設定
	三六	二・二六事件
	三七	蘆溝橋事変
	三九	第二次世界大戦起こる
	四一	太平洋戦争起こる
昭和20	四五	太平洋戦争終わる
	四六	抗日戦争勝利
	四九	新日本文学会成立
	五〇	日本国憲法発布
	五一	中華人民共和国成立
	五三	風俗小説流行
昭和30	五三	朝鮮戦争勃発
	五一	民間放送開始
	五三	テレビ放送開始
	五六	日本、国連へ加盟
	六〇	新安保条約調印
昭和40	六四	東京オリンピック開く
	六八	川端康成ノーベル文学賞受賞
	六九	人類、月に着陸

二、前期

(ア) 啓蒙期

【伝統的な文学】 明治改元後、約二十年間の文学を、通常、啓蒙期の文学と称せられる。この期間はとり残された伝統文学と、興隆する新文学とが入りまじった混沌たる時代であって、その前半の約十年間は伝統的な文学の時代といゆるのである。すなわちこの期にあつて、前代(近世)文学の伝統の流れに立つものとして①仮名垣魯文・②高島藍泉(三世柳亭種彦)・③染崎延房(二世為永春水)などの戯作者たちとその作品をあげることができる。しかしこれらの戯作者たちは、時代の進運とともに早晚衰亡する運命にあつた。ただこれらの戯作者たちの中にあつて、比較的新時代への反応を示した仮名垣魯文の作品は一時流行をもつて迎えられた。すなわち「道中膝栗毛」「浮世床」の形式を模しつつ、巧みに当時の文明開化の世相をとり入れた「④西洋道中膝栗毛」「⑤安愚楽鍋」などがその代表的なものである。漢文学の系統では文明開化の浅薄な側面に辛辣な風刺の矢を放つた旧幕臣⑥成島柳北の「柳橋新誌」がある。

これらの作品は、表面的に当時の世相を戯画化する程度の、底の浅いもので、しよせん近代における写真小説にまで脱皮することはできなかった。

年ごろは三十四五の男いろあさぐろけれどシヤボンをあさゆふつかふと見えてあくぬけていろつやよくあたまはなでつけかそうはつにでもなるころか百日このかたはやしたるを右のかたへなでつけもつともラーデコロリといへる香水をつかふとみえてかみのけのつやよくわけはかくべつおほきからずきぬごろのみちゆきぶりにたう糸二夕子のわたれまがひさらさの下夕着うらははりかへしのがくうらなるべしカナキンではりたるかうもりかさをかたはらへおきくるしいさんだんにもとめたる袖時計のやすものをえりからはづしてときどきときをみるはそつちのけぢつはほかのものへ見せかけなりたゞしくさはきんのでんぶらと見えたり。となりけうしをくひてるるきやくにはなしをしかける。「モシあなたエ牛は至極高味でござすネ此肉がひらけちやアはたんや紅葉はくへやせんこんな清潔なものをなぞいままで喰はなかつたのでござせう西洋では千六百二三十年前から専ら喰ふやうになりやしたがそのまへは牛や羊はその国の王か全權と云つて家老のやうな人でなけりや平民の口へは遣入やせんのだ追々我國も文明開化と号つてひらけてきやしたから我々までが喰ふやうになつたのは実にありがたいわけでござそれを未だに野蛮の弊習と云つてネひらけねへ奴等が肉食をすりや神仏へ手が合されねへのヤレ穢れるのとわからねへ野暮をいふのは究理学を弁へねへからのことでござそんな夷に福沢の著た肉食の説でも読せてへネモシ西洋にやアそんなことはござせん。……」

〔安愚楽鍋〕卷一 西洋好きの聴取

【啓蒙思想の文学】 未開を脱して文明につこうとする、いわゆる文明開化の推進役になつたの

は、幕末から欧米に洋行して新知識を摂取してきた啓蒙家たちであった。明治六年、①森有礼の主唱のもとに、②福沢諭吉・③西周などの啓蒙家たちが創始した団体「④明六社」はこの意味で大きな力があった。すなわち「明六雑誌」を発行して、功利主義・実利主義の立場で、外国の新思想や新知識をどしどし移入紹介したのである。そしてその文化的な活動の範囲は、いかにも啓蒙家といわれるにふさわしく、およそ文化全般にわたっており、啓蒙的な役割を、十分に果たし得たのである。こうした啓蒙的な推進が、やがて文学の推進にもなった。福沢諭吉には「学問のすゝめ」のような教学的なものや、時代諷刺をおりこんで寓話風にかいた「かたわ娘」や地理の知識を唱歌体にうたいこんだ「世界国尽」の作がある。また西周は百科全書家といわれたように、人文・自然の両面にわたる外国のあらゆる学問にくわしく、「百学連環」はその代表作である。ここには近代美学や近代文学の一端が紹介されており、当時はその性質上多くの人に伝わらなかったとはいえ、近代の学問文学の源流はすべて周に発するといえよう。

天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずといへり。されば天より人を生ずるには万人は万人皆同じ位にして生まれながら貴賤上下の差別なく、万物の靈たる身と心との働きをもつて天地の間にあるよろづの物を資り、もつて衣食住の用を達し、自由自在、互ひに人の妨げをなさずしておのおの安楽にこの世を渡らしめたまふの趣意なり。されども今広くこの人間世界を見渡すに、かしこき人あり、おろかなる人あり、貧しきもあり、富めるもあり、貴人もあり、下人もありて、その有様雲と泥との相違あるに似たるは何ぞや、その次第はなはだ明らかなり。実語教